

富山大学和漢医薬学総合研究所 第33回特別セミナー

The 33rd Special Seminar

主催者 富山大学和漢医薬学総合研究所

日 時 平成24年11月22日

場 所 富山県民会館304号特別会議室

目的と概略

和漢医薬学総合研究所は、本邦の和漢医薬学研究分野の学術交流や共同研究の活性化とともに、研究者人口の裾野を広げて本研究分野の充実を図り、さらには「くすりの富山」として全国に知られる富山県の薬業のさらなる振興を目的として、国内関連研究者を対象に特別セミナーを開催してきた。

近年、脳血管疾患や認知症、関節リウマチなどの膠原病、糖尿病や痛風といった生活習慣病、悪性腫瘍など、様々な疾患、あるいは病態に対して漢方方剤が用いられてきている。しかし、使用されている漢方方剤の作用機序には未だに不明な点が多い。今後もより多くの疾患に対して漢方薬を応用するには、基礎・臨床研究によるさらなる作用機序や相互作用、煎出法や修治の影響の解明が必要である。そこで平成24年度は、「臨床の視点からみた生薬・漢方方剤研究」をメインテーマとして、漢方方剤及びその煎出に関する研究にフォーカスをあて、第33回特別セミナーを開催した。

プログラム

1. 森元 康夫 クラシエ製薬株式会社漢方研究所 薬理研究グループ
六君子湯における白朮の配合意義について –ラット胃排出実験による薬理的検証–
2. 堀江 俊治 城西国際大学薬学部薬理学研究室
基礎の視点からみた大建中湯の臨床応用
3. 鳥居塚和生 昭和大学薬学部創薬分子薬学 生薬学・植物薬品化学部門
生薬・剤形からみた漢方薬と作用の解析
4. 藤本 誠 富山大学附属病院和漢診療科
メタボリックシンドローム治療薬としての桂枝茯苓丸
5. 柴原 直利 富山大学和漢医薬学総合研究所 漢方診断学
腎疾患に対する桂枝茯苓丸の効果
6. 牧野 利明 名古屋市立大学大学院薬学研究科 生薬学分野
漢方処方配合される石膏の謎を探る
7. 岡村 信幸 福山大学薬学部 漢方薬物解析学研究室
複合成分系薬物としての大黃甘草湯の有用性
8. 御影 雅幸 金沢大学大学院医薬保健学総合研究科薬学系
大黃の修治と薬効

参加者数

研究所：88名

和漢医薬学の科学的基盤形成および関連研究者コミュニティ形成への貢献

「臨床の視点からみた生薬・漢方方剤研究」をメインテーマとして、六君子湯や大建中湯の薬理学

的研究，剤形の違いによる薬理効果の相違，既存漢方方剤を用いた基礎研究での作用機序解明に基づいた臨床応用，医療用エキス原末・生薬末・煎液エキスによる薬理効果の相違，生薬の増減による薬理効果の相違，生薬の修治による化学的プロファイルと薬理効果の相違白朮についての講演があり，その内容について活発に討議したことから，和漢医薬学の科学的基盤形成に寄与したものと思われる。

また，漢方方剤やその構成生薬を用いた研究における問題点やその解決方法などについても，セミナー内だけではなく，フロアにおいても議論がなされており，シンポジウムにおける講演者を含めた関連研究者と所内研究者・学生との間のコミュニティ形成においても貢献したと思われる。